

# 地域とともに、地域ならではの魅力ある県立高校を目指して



福島県教育委員会では、平成31年2月に県立高等学校改革前期実施計画を策定し、すべての県立高校を6つの学校群に位置付け、各校が特色化を図ることとしました。

その中で、「地域協働推進校」に位置付けた6校において、コミュニティ・スクール(6ページ)を導入するとともに、高校での学びを通じた地域づくりの視点を踏まえながら、地域と協働した学校づくりを推進し、地域創生の核となる人材を育成することとしました。

今年度は、地域協働推進校のうち、湖南高等学校・西会津高等学校・川口高等学校の3校をモデル校に指定し、コミュニティ・スクール導入に向けた準備を進めるとともに、高校生の視点から地域課題を探究する教育活動に取り組み、それぞれの地域ならではの特色ある学校づくりを推進してきました。次年度以降は、川俣高等学校・猪苗代高等学校・只見高等学校にも取組を広げ、地域とともに魅力化を進めていきます。

このパンフレットでは、今年度のモデル校3校の取組や本県の県立高校におけるコミュニティ・スクールの概要について紹介します。

## 高校が地域と協働することによってもたらされるもの

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、教育改革、地方創生等の観点からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。

社会総がかりで教育を実現する上で、これからの公立学校は「開かれた学校」から更に一步踏み出し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」へと転換していくことが重要です。

### ○ 地域ならではの特色を生かした高等学校になります

地域や社会の参画・協力を促進することによって、学校運営の改善につながり、キャリア教育の推進や学校の魅力化、特色づくりにつなげることができます。

### ○ これから生きる生徒の力を伸ばします

地域の差し迫った課題を、高校生自らが地域と協働して解決していく地域課題探究型学習に取り組むことによって、これからの時代に必要な主体性や協働性などの力を伸ばし、生徒のキャリア形成につなげることができます。

### ○ 地域人材の育成・還流に寄与します

自治体、地元産業界等との連携を強化することによって、地域人材の育成・還流を図る仕組みを構築することができます。



# 湖南高等学校

地域の生の声を聴き、  
地域の課題から自分たちにできることを発見  
～自ら考え、判断し、行動できる力を養います！

湖南高校は郡山市西部の湖南町にあります。生徒数は87人で、地元の生徒はもとより町外から通う生徒もいます。令和元年度から、ホールアース自然学校福島校の和田祐樹さんを講師として招き、「地域課題探究」をテーマに地域の課題から自分たちにできることを探る講座を実施しています。また、夏は猪苗代湖の湖岸清掃、冬は地域の高齢者宅での除雪作業のボランティア活動など、学校全体で地域とともに行う活動を実施しています。

## 湖南高校ならではの地域課題探究学習

地域課題探究活動により、何をすべきか自ら考える力、自らの責任で判断し実践できる力、自分たちが暮らす地域に関心を持ち積極的に関わり行動する力を身につけさせたいと考えています。これまで、地域の課題を探るべく、地域住民へのアンケート調査結果の分析や、地域の起業家の方々へのヒアリング調査、地域企業への職場体験活動を行ってきました。今後は自分たちにできることは何かを明確化し、マイプロジェクトをつくる予定です。

### 主な連携先

NPO法人ホールアース自然学校福島校、湖南町商工会、美農然(農業)、サウスレイクコテージ田舎(宿泊業その他)、mogumogu(洋菓子店)、郡山市(湖南行政センター)



夏休みに、湖南町で職業体験をしました。写真は湖南町商工会のお手伝いとして行った花火大会の看板設置の様子。



地域の起業家の方、5名に学校に来ていただき、生徒がグループで質問をしている様子。写真はmogumoguの小山さん。

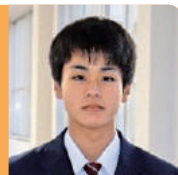


生徒たちがマイプロジェクトをつくり始めました。写真は和田さんからアドバイスをもらいながら、活動する様子。

株式会社 美農然  
齋藤 章輔 さん  
幸江 さん



1年 大山 絢也 さん



NPO法人  
ホールアース  
自然学校福島校  
和田 祐樹 さん



### 高校生との交流が 地域の大人のいい刺激に なっています

高齢者が大半を占める湖南町において、高校生と交流できる機会は本当に貴重です。授業を通じて現代の農業に触れてもらい、食材に対する興味を持つことで、農業という仕事にも興味を持っていただけたら嬉しいです。

### 地域のために 何ができるのかを考えながら、 楽しく学習しています

地域課題探究の授業で、地域の方々から直接お話を伺ったり、職業体験したりすることで、湖南町のメリット・デメリットや課題を知ることができました。湖南町や地域の方々のために何ができるかを考える学習に楽しく取り組んでいます。

### 高校生の「好奇心」と「探究」が 新たな可能性の創造に

「経験」も情報として知ることができる現代。

まさにその時代を生きる彼ら彼女らの「好奇心」と「探究」から生まれる発想・実践が、自身の生きた学びとなり、地域や時代にとって新たな「可能性の創造」となることを、私は信じて疑いません。



# 西会津高等学校

西会津未来探究学で課題発見と探究活動を展開  
～学校が目指す7つの力を養います！

西会津高校は、県の西北、飯豊山南麓の小盆地に位置する全日制普通科の高校です。平成27年から特設部「西高魅力発信隊」が、地域の魅力を学びながら地元事業者と協働して「車麩ラスク」を商品化。特産品の活用を地元飲食店とともに考える「ホワイトカレープロジェクト」「おにぎりプロジェクト」、さらに地域伝統の野良着“さっぱかま”のリノベーションにも着手し、近年は「総合的な探究の時間」の充実と教科授業における地域人材の活用を図っています。

## 西会津高校ならではの地域課題探究学習

学校の公約「西高PC～7つの力～」に基づき、地域探究活動においては特に「傾聴力」「思考力」「協働力」の涵養を図ります。「西会津未来探究学」と銘打った課題発見と探究活動を1・2年生を対象に展開。また、豊富な地域資源（人・歴史・自然）を生かして、史跡巡りや文化的アクティビティーを実践する「歩く・学ぶ・西会津」や、西会津発祥の「除雪」+「エクササイズ」=ジョセササイズ等を体験しています。

### 主な連携先

一般社団法人i.club(アイクラブ)、(株)アズール、田崎なめこ店、Restaurant&Café KURA..うえの菓子店、西会津町ゲートボール協会、西会津町教育委員会



西会津未来探究学の一コマ。  
田崎なめこ店とi.clubを  
交え、担当グループの生徒  
が取材と協議を行いました。



西会津未来探究学の一環で、地元の道の駅の協力を得て、対象事業所が扱う商品の販売状況について実地調査を行いました。

西会津未来探究学の間接発表で、(株)アズール、田崎なめこ店、Restaurant&Café KURAの三者から講評をいただきました。

学校評議員  
廣瀬 渉 さん



### 地域の声と協力で魅力ある 学びを

我が町に高等学校がずっと存続してほしいというのは町民の願いです。そのためにも町の支援や地域の声と力を活かし、学習内容や学びの環境をいっそう魅力的にして「学びたい学校・学ばせたい学校」を目指し、地域の活性化に繋いでほしいと期待します。

1年 渡部 優 さん



### 探究活動の中から、 自分が身につけたい力を発見

「総合的な探究の時間」で地元レストランの活性化について考えています。グループで調査や話し合いに取り組む中で、他人任せではなく自分が引っぱっていくというくらいの積極的な気持ちでやらないと、なかなか前に進まないことに気がつきました。

一般社団法人  
i.club代表理事  
小川 悠 さん



### 地域に眠るたくさんの魅力に 出会える場を作ります

地域の未来にワクワクできるか、どうか。それは、そこに眠る地域資源や、そこで活躍する地域の人々との出会いがあったかどうかで決まります。子どもたちに、そうした出会いが当たり前のようにある学校にしていきたいです。

# 川口高等学校

奥会津の豊かな自然と文化を肌で感じながら、AAA(トリプルA)を目指します！

川口高校は、昭和23年の創立以来、大沼郡西部地区の豊かな地域づくりに貢献する人材育成を教育の柱に掲げ、地域ボランティア活動や社会福祉教育を推進し、地域とのつながりを深め、積極的に地域と関わる活動に伝統的に取り組んできました。令和元年度からは、Attentive(協調的な)、Autonomous(自主的な)、Active(活動的な)という、3つの資質・能力を育成するための教育活動を展開しています。

## 川口高校ならではの地域課題探究学習

「奥会津風土体感プログラム」と銘打った地域の伝統や文化を体験的に学ぶ地域理解活動と、**地域の強みや課題を見いだす探究活動**の二つを柱に活動を進めています。1月には、探究活動の中で学んだ成果について、地域関係者を学校に招いて発表を行い、**生徒の目から見た地域活性化に向けた提言**を行いました。また、地域の技能者を招聘した漆塗りや絵ろうそく、からむし織体験や郷土料理講習会、地域行事「私の言いたいこと発表会」への参加などによって、地域への理解を深めています。

### 主な連携先

一般社団法人Bridge for Fukushima、  
桐径会(金山町、昭和村、三島町、柳津町による支援団体)、  
金山町、金山町教育委員会



Bridge for Fukushima伴場 賢一さんの指導を受けながら、課題解決学習(PBL学習)に取り組んでいます。写真は、地域課題についてSWOT分析やKJ法を用いて話し合う様子。



昭和村の伝統工芸「からむし織」について学芸員より講義を受ける様子。この後、織機でからむし織りの体験を行いました。



金山町の漆塗りやろう細工、昭和村の「からむし織」や三島町の「編み組細工」など、奥会津の豊かな自然を生かした伝統工芸の製作にチャレンジします。写真は、金山町在住の漆工芸家の指導を受け、2週4時間にわたって制作した漆細工が完成した様子。

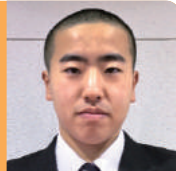
長清商店  
長谷川 清尚 さん



**高校生の活動が、  
大人に刺激と感動を  
与えてくれます**

積極的に地域から学ぶとともに、様々な活動を通して私たちに刺激と感動を与えてくれる川口高校は地域の宝です。ともに地域の未来を創造すべく、今後ますます川高生と切磋琢磨しあうのを私たちは楽しみにしています。

1年 中丸 智滉 さん



**地域の魅力や良さを  
再発見しました**

初めて出会う仲間たちと、私たちが住む町の強みや弱みを話し合い、町の課題に対して私たちが、何が出来るのかを考える中で、今まで気づかなかった町の魅力や良さを発見することができました。これからも、私たちの町をより良いものにする活動を積極的に行っていきたいと思います。

一般社団法人  
Bridge for Fukushima  
代表理事  
伴場 賢一 さん



**地域の風土に直に触れながら、  
思考を整理することで、  
新たな地域の可能性に**

奥会津の持つ風土の深さを高校生が体感するにあたり、思考の整理をお手伝いさせていただきました。高校生の思考の広がり可能性に無限性を感じています。



# 地域は学びの宝庫 ~今、私たちにできること~

## 3校合同による地域課題探究ワークショップを開催しました

令和元年11月12日(火)に、金山町の川口高校において、地域協働推進校の湖南・西会津・川口高校の1年生を対象に、地域課題探究ワークショップを開催しました。各校の地域課題探究活動の成果発表を行い、引き続いて、東北芸術工科大学の岡崎エミ先生より、地域の高校だからこそできる地域づくり学習について講演いただきました。午後には、それぞれの地域の課題や魅力、これからの地域の未来について話し合いました。

ワークショップでの様々な立場の人たちの交流は、3校の生徒たちにとって貴重な経験になりました。



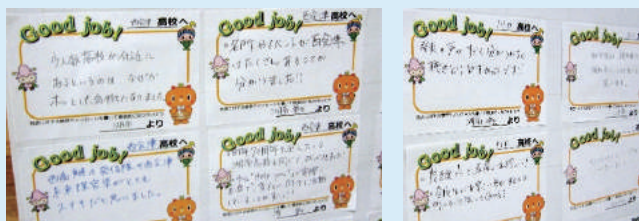
川口高校の生徒からホスト校のあいさつ。



アイスブレイクでは、他校生はじめ、さまざまな大人とも交流。



はじめのうちは、他校生と打ち解けられるか緊張した様子もありましたが、次第に慣れていき、グループのみんなと膝を突き合わせて話し合う場面もありました。



各校の取組に、たくさんのGood jobが付きましました。自分の地域との違いや共通点にも気づきました。



東北芸術工科大学  
コミュニティ・デザイン学科長  
岡崎 エミ 先生



### ワークショップの講演から

皆さんの地域で急速に進んでいる人口減少とそれに伴う様々な問題は、やがて日本全体の問題になります。

まさに課題先進地の高校生として、地域の人たちと一緒に一歩踏み出し、「やってみよう!」

全国の高校生たちも、地域の人たちといろいろなことにチャレンジしていますよ。



司会進行は、すべて生徒。



グループで話し合った「地域の未来」を発表。



### 生徒の感想(抜粋)

- 高校生がもっと町のPR活動に参加したほうが良いと思った。(高校生が)活発に動くことができれば町の活性化につながると思う。(川口高校Aさん)
- 他の学校の発表を聞いて、勉強になる部分がたくさんありました。湖南町の魅力を伝えることができてよかったです。また、地域の課題となる部分も見つかったので、少しでも実行に移せるように頑張りたいと思います。(湖南高校Bさん)
- (エミさんの講演の中で)「挑戦って大事」という言葉を言っていて、心に響いたし、これから挑戦しようと思った。(西会津高校Cさん)



# コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について

福島県教育委員会では、地域協働推進校が地域と連携しながら魅力ある高校づくりを進めるために、当該校に「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」を導入します。

コミュニティ・スクール(CS)とは、「学校運営協議会」を設置している学校のことで、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民の皆さんが参画できる仕組みです。当事者として、子どもたちの教育に対する課題や目標を共有することで、学校を支援する取組が充実するとともに、関わる全ての人に様々な魅力が広がっていきます。

令和2年度からは、湖南高等学校・西会津高等学校・川口高等学校の3校に導入し、令和3年度以降には、川俣高等学校・猪苗代高等学校・只見高等学校に導入していきます。

## コミュニティ・スクールは「地域とともにある学校づくり」に有効なツールです

### 地方創生(学校を核とした地域づくり)を目指して

学校と地域の両方を元気にするために、学校を核として地域全体で共通の目標・ビジョンをもって取り組むことができます。「大人が学ぶ」姿を子どもたちに見せることで、地域を「自分たちで創る」という意識を養うことができます。

### 「社会に開かれた教育課程」の実現のために

まずは保護者や地域住民との情報や課題を共有し、「これからの時代を生きる子どもたちのために」という共通の目標・ビジョンを設定し、同じ思いで日々の教育活動を進めていくことができます。

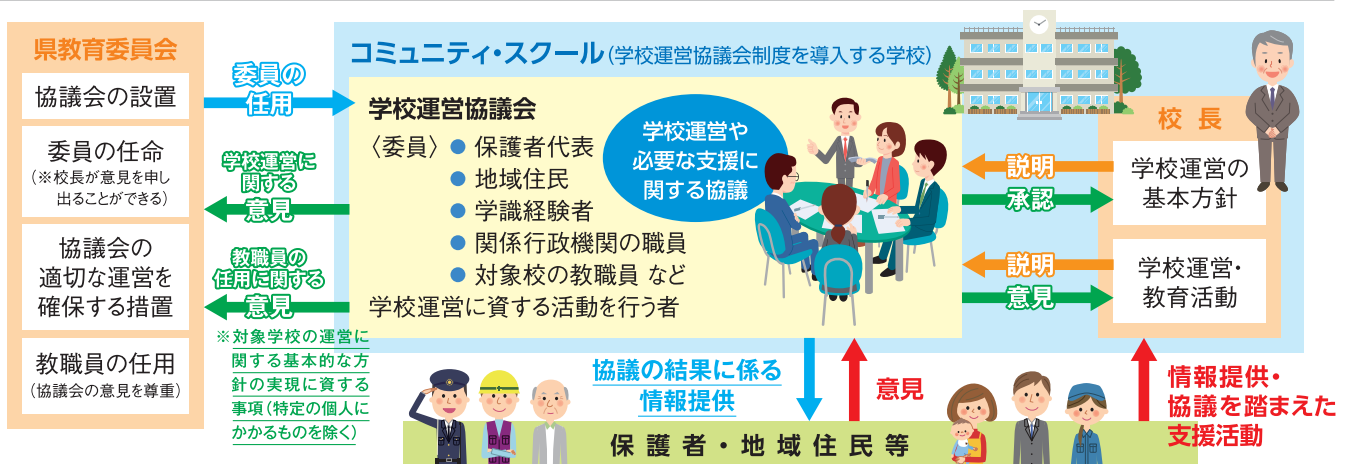
### 社会総がかりで子どもたちを育む体制の構築

多くの地域住民や保護者にも、学校と方向性を合わせ、一体となって子どもたちの成長に関わってもらえるような体制を作ることができます。「信頼できる大人と関わる機会」を作るとは、子どもたちの自己肯定感や主体性・多様性・協働性を高めることができます。

### 連携・協働体制の構築に向けて(働き方改革の視点を含め)

学校と関わるさまざまな団体等と学校との関係を一度整理し、「依頼する⇔される」という関係ではなく、目標や役割分担等について話し合う場を設定することができます。学校と地域はパートナーとして連携・協働し、子どもたちの学びを充実させていくとともに、地域づくりを考えることができます。

## 本県の県立高校におけるコミュニティ・スクール(CS)のイメージ図



### 「学校運営協議会」は、主に3つの機能を持ちます【地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第47条の6】

- 校長が作成する学校運営の**基本方針の承認**をすること
- **学校運営**について、教育委員会又は校長に**意見を述べる**ことができること
- **教職員の任用**に関して、教育委員会規則に定める事項\*について、教育委員会に**意見を述べる**ことができること

\*対象校の運営に関する基本的な方針の実現のための事項とし、特定の個人に関するものは除きます。



### Q1 コミュニティ・スクールのメリットや魅力は何ですか？

- ① 校長先生はじめ先生方の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「**持続可能な仕組み**」です。
- ② 子どもの抱える課題、地域で育てたい子どもの姿、そのために何を実現していくのかという「**目標・ビジョンを共有**」できます。
- ③ 校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して関係者がみな**当事者意識**をもち、「**役割分担をもって連携・協働による取組**」ができます。


### Q2 学校運営協議会制度と学校評議員制度は、どう違うのですか？

学校評議員制度は、開かれた学校づくりに向けて、校長が必要に応じて学校運営に関して保護者や地域の方々の意見を聞くことを目的としています。それに対して学校運営協議会制度は、「**合議体**」として、保護者や地域の方々が、社会総がかりで子どもたちの健全育成や学校運営の改善に取り組むことを目的としています。

### Q3 学校運営協議会の委員は、どのようなメンバーで構成されて、何を協議するのですか？

実質的で活発な議論により一定の方向性を決定できる程度の人数が必要であり、**学校(校長)とともに行動していける委員を選定**することが重要です。協議会では、学校運営に関する基本的な方針の承認を行うことなどの権限が法律上定められていますが、合議体の機能を生かして、学校評価や地域学校協働活動についても協議が行われます。**学校の課題だけでなく、未来志向の協議も**並行して行うことがポイントです。

文部科学省コミュニティ・スクール  
マイスター  
(本宮市立五百川小学校長)  
安齋 宏之 先生



#### 22世紀まで生きる子どもたちのために

先の見えにくいこれからの時代。  
高校時代に大事なことは、自己の将来に夢や希望を持ち、その実現を目指して意欲的に学習に取り組むことです。  
これからの学校は、子どもたちに、様々な立場の人々との多様な経験を積ませ、様々な関係者との協働による教育活動を展開することが必要です。

## コミュニティ・スクール(CS)を実現するための講演会などを実施しました

モデル校3校では、コミュニティ・スクールをはじめとする地域との協働を推進するために、様々な研修会や講演会を行い、地域と協働する意義、コミュニティ・スクールの進め方、熟議(8ページ)のやり方などについて、地域の方々とともに理解を深めました。



○未来の社会を切り拓く資質・能力を育成するために、家庭や地域との連携・協働はますます必要になります。  
文部科学省視察委員(当時) 貝ノ瀬滋先生の講演から



○地域探究学習は「学びの姿勢を育てるレッスン」。生徒の学びを中心に据えて地域と協働した探究活動を磨いていってください。  
コラボ・スクール 双葉みらいラボ拠点長 長谷川勇紀さんの講演から



○コミュニティ・スクールは、子どもも大人も育ち合う教育体制です。学校の強みや地域の強みを生かして何よりも生徒のために取組を進めてください。  
栃木県足利工業高校 井上昌幸先生の講演から

### 講演を聴いて

- 形をどうするかばかり気にしてしまい、その本質、子どもたちをよりよくするために学校運営協議会をどう運営していくかを忘れかけていました。来年のCS化に向けて、学校と地域が一丸となって頑張っていきたいと思います。(教職員)
- サステナブル(=持続可能)なやり方だと思います。地域と学校との関わりは、今後一層深くなっていくものと思います。(教職員)
- 地元の高校を、とことんどこまでも応援してきます。(地域住民)



# 地域と学校が一体となって生徒を育てていくために 熟議・協働・マネジメントの重要性

学校運営協議会が設置された学校においては、法律や規則で定められた三つの機能(6ページ)に加えて、「熟議」の場の設定し、「協働」による取組ができる体制、校長の「マネジメント」力を備えておく必要があります。

文部科学省  
コミュニティ・スクール  
マスター  
(宮城教育大学学長付特任教授)  
野澤 令照 先生



## 1回だけでは効果がない

熟議は、教職員や保護者や地域住民、場合によっては、生徒たちとも行い、積み重ねていってください。多様な意見が生まれ、次の行動につながっていきます。

## ① 熟議

子どもたちがどのような課題を抱えているのかという実態を共有するとともに、地域でどのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのかという目標・ビジョンを共有するために「熟議(熟慮と議論)」を重ねることが大切です。熟議とは、協働して取り組む一連の自主的、実践的な活動を、話し合いを重ねながら生み出そうとするものです。熟議の実施により、子どもたちに関わるより多くの方の意見を取り上げることができます。

## ② 協働

「熟議」の実施を通して学校と地域の信頼関係の基礎を構築した上で、学校運営に地域の人々が「参画」し、共通の目標に向けて「協働」して活動していくことが大切です。

## ③ マネジメント

その中核となる学校は、校長のリーダーシップのもと、目指すべきビジョンの達成に向かって学校内の組織運営を管理することにとどまらず、地域との関係を構築し、地域人材や資源等を生かした学校運営を行っていく力が必要です。



湖南高校での熟議の研修会の様子



先生や地域の方の思いが見える化しました

## (関連ウェブサイト・参考資料)

### ○ 学校と地域でつくる学びの未来(文部科学省ウェブサイト)

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/index.html>

上記サイトには、以下のコミュニティ・スクール関連資料が掲載されています。

- ① コミュニティ・スクール 2018～地域とともにある学校づくりを目指して～
- ② コミュニティ・スクールのつくり方(学校運営協議会設置の手引)(令和元年度改訂版)
- ③ 地域みんなで子供たちの未来を考えるワークショップのすすめ

### ○ 福島県立学校におけるコミュニティ・スクールについて (県立高校改革室ウェブサイト)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70057b/>

上記サイトには、本県の県立学校における学校運営協議会設置規則などの資料が掲載されています。

1



2



3



福島県教育庁 高校教育課 県立高校改革室

〒960-8688 福島県福島市杉妻町2-16  
電話 024-521-7771 FAX 024-521-7973